

11. プロムナード計画の避難の考え方

各拠点、ルートの特徴

- ・プロムナード計画の各拠点、ルートは、海に近い沿岸、河川沿いであることから、プロムナード計画での避難は、主として津波を考慮する。
- ・プロムナード計画の各拠点、ルートから避難することを想定した場合の現状は図のとおりである。

【ルート④・⑥・拠点F】
 ・右岸側は、小学校やマンション等があるが、場所によって距離がある。
 ・橋を渡って対岸の山まで逃げようとする時間がかかる。
 ・左岸側は、近くに高いところがない。最寄りの山まで逃げようとする時間がかかる。

【ルート⑤・拠点G・拠点H】
 ・運河沿いにマンションや事務所、学校等の高い建物があるが、場所によって距離があり、スムーズに移動できる避難路も少ない。

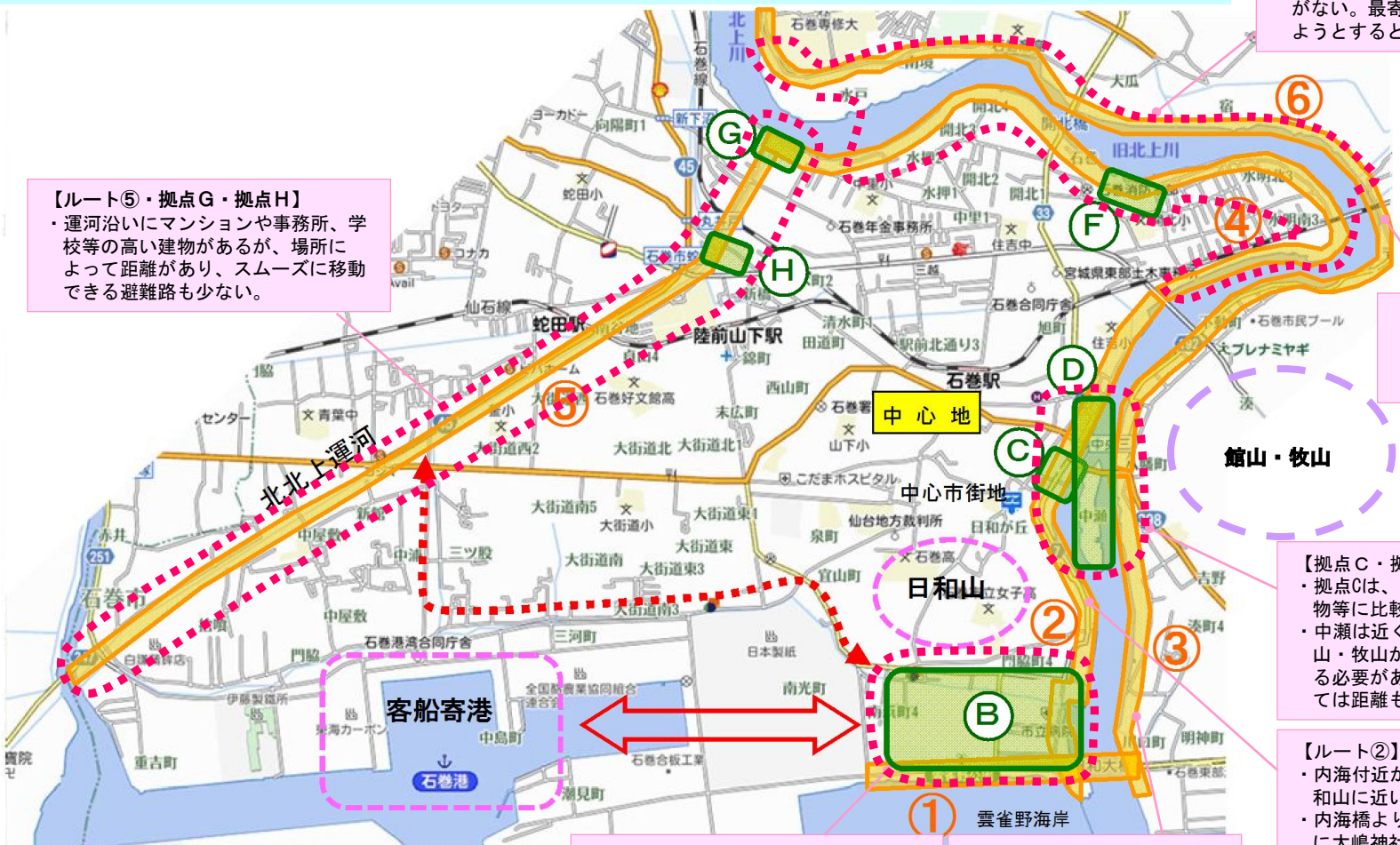
【ルート⑥】
 ・ルート⑥の下流は、館山・牧山に近い。

【拠点C・拠点D】
 ・拠点Cは、日和山や高い建物等に比較的近い。
 ・中瀬は近くに日和山、館山・牧山があるが、橋を渡る必要があり、場所によっては距離も遠い。

【ルート②】
 ・内海付近から下流側は、日和山に近い。
 ・内海橋より上流側は、近くに大嶋神社の裏山や住吉小学校等の高い所がある。

【ルート①・拠点B】
 ・海岸沿いは、近くに高い場所がない。
 ・拠点Bは広大な平地であり、場所によっては日和山への避難に時間を要する。

【ルート③】
 ・近くに館山・牧山があるが、場所によっては館山・牧山までの避難に相当時間を要する。



11. プロムナード計画の避難の考え方

避難の考え方と課題

- ・各拠点・ルートともに、基本的には近くの山や、高い建物、または内陸側に向けて避難することが必要であり、誘導のサイン等も検討していく。
- ・近くに避難できる山や建物がなく、時間がかかる場合には、避難ビル等の、新たな避難施設を確保することが今後の課題となる。

【ルート④・⑥・拠点F】

- ・左岸側は近くの山や学校への避難が、右岸側は近くの建物等への避難が想定されるが、場所によって避難に時間がかかるため、避難施設等の避難場所の確保や的確な誘導が課題。

凡 例



避難方向

近くの山や学校へ

【ルート①・拠点B】

- ・日和山に最短で避難できる避難路の確保や的確な誘導が課題。
- ・場所により、日和山までの避難に時間を要することから、折念公園内での高台や避難施設等の確保も必要。

【ルート③】

- ・場所により館山・牧山まで相当の時間を要するため、高台や避難場所の確保、的確な誘導が課題。

【拠点C・拠点D】

- ・拠点Cは日和山に最短で避難できる避難路の整備が課題。
- ・拠点Dは、中瀬下流側等、場所によって避難に時間がかかるため、避難路の整備や、避難施設の確保、的確な誘導が課題。

【ルート②】

- ・近くの建物や日和山への避難が想定されるが、場所によって避難に時間がかかるため、避難路の整備や、避難施設の確保、的確な誘導が課題。

【ルート⑤・拠点G・H】

- ・場所によって避難に時間がかかるため、避難施設等の避難場所の確保や、的確な誘導が課題。

※山への避難路

- ・山への避難路は、急勾配で幅が狭い箇所もあり、高齢者等への配慮が課題。



12. 具体化に向けた取り組みの提案

プロムナードの利活用の促進に向けた取り組み(案)

～体制・基盤づくり～

産、学、官、民が連携したプロムナード利活用促進体制の確立

プロムナード利活用促進協議会(仮称)を設立するなど、産、学、官、民が連携できる体制を確立し、利活用促進に向けた様々な取り組みを実施していく。



▲協議会風景イメージ
第1回プロムナード計画懇談会(平成22年5月開催)

サインプロジェクト(仮称)

サインプロジェクト(仮称)は、市民、行政、学識経験者など「いしのまき水と緑のプロムナード計画」に係る人たちの連携と協働により、サインの検討から設置を行う。また、設置後のサインの更新や充実を図る活動を将来にわたり継続的に行う、市民参加型のプロジェクトとする。



▲ワークショップのイメージ

イベント施設やオープンカフェの設置

平成23年度の河川敷地の占用に関する規制緩和を活用し、民間事業者による河川敷地でのイベント施設やオープンカフェを設置し、水辺空間の賑わいを創出する。



▲広島京橋川の事例写真

～歴史・文化の学習と観光振興～

プロムナードツアーの企画

プロムナードの各拠点やルートの特徴を活かしたツアーをNPOやボランティア、大学などとの連携により企画、ツアーの実施を重ねることにより、より市民や観光客に満足いただけるものにレベルを高めていく。また水辺や川と親しむ各種イベントを開催し、来訪者の増大を図る。



▲イベント事例写真(海軍公園でのイベント風景)



▲観光ツアーイメージ
(北上川石巻湊公開講座による歴史探訪)

石巻の歴史・文化を学ぶ舟運の復活

昔の石巻港の歴史・文化を感じながら、来訪者の回遊、移動の足となる舟運を復活させる。



▲水上交通のイメージ

観光ガイド等の育成

石巻の歴史文化に詳しい石巻マスターを発掘し、ボランティアガイド等の育成を長期的な事業として行う。



▲第8回北上川石巻湊古公開講座にて、船魂神社を探訪

観光パンフレット、マップの発行

来訪者へのPRとプロムナード利活用の利便性向上を図るため、プロムナードを紹介した観光パンフレット、マップを発行する。



▲フットバスのイメージ(最上川 長井)

～利便性の向上・教育～

ITの活用による情報提供

インターネットホームページを立ち上げ、各種情報発信を行うとともに、モバイル向けの情報提供を行う。



携帯でアクセス
携帯電話で読み込めるQRコードを施設に配置

さらに、各施設に携帯電話で読み込めるQRコードを配置し、携帯電話からアクセスしたり、スマートフォン用のマップに各種情報を盛り込み、史跡や各種施設の詳しい紹介やガイドを行うことで、プロムナード散策の楽しみの向上や施設利用の推進を図る。

バリアフリー・レンタサイクル導入による利便性の向上

プロムナード計画に基づき整備するところにおいて、誰でも使いやすいバリアフリー化を図る。また、レンタサイクルを導入し、プロムナードのサイクリング利用を推進する。



▲水辺のバリアフリーのイメージ



▲サイクリングでの水辺散策

河川環境及び防災学習の推進

小中学校と行政、市民が連携して、石巻の特性を活かした教材による環境教育や防災教育を推進する。



▲水生生物調査風景